



『大切にしたい就学前の 体験活動について』

社会福祉法人友愛福祉会
おおわだ保育園・おおわだ保育園世田谷豪徳寺
内閣府子ども子育て本部
馬場耕一郎

環境を通して行う保育

乳幼児期は、生活の中で興味や欲求に基づいて自ら周囲の環境に関わるという直接的な体験を通して、心身が大きく育っていく時期である。子どもは、身近な人やものなどあらゆる環境からの刺激を受け、経験の中で様々なことを感じたり、新たな気づきを得たりする。

生活や遊びを通して総合的に保育する

保育士等は、保育所の生活や遊びにおける子どもの体験について、発達の見通しをもちながら計画を立て、保育を行う。その際、子どもの実態や状況に即して柔軟に対応することが大切である。また、短期的な結果を重視したり、子どもの活動が特定の知識・能力の習得に偏ったりすることがないよう留意する。

主体的な活動

子どもの主体的な活動を促すためには、保育士等が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、子どもの情緒の安定や発達に必要な豊かな体験が得られるよう援助すること。

袋栽培の活動を通して「食」とすると

- 身体 of 諸感覚を刺激する活動となる
- 5感を同時刺激する活用
- 継続観察が可能

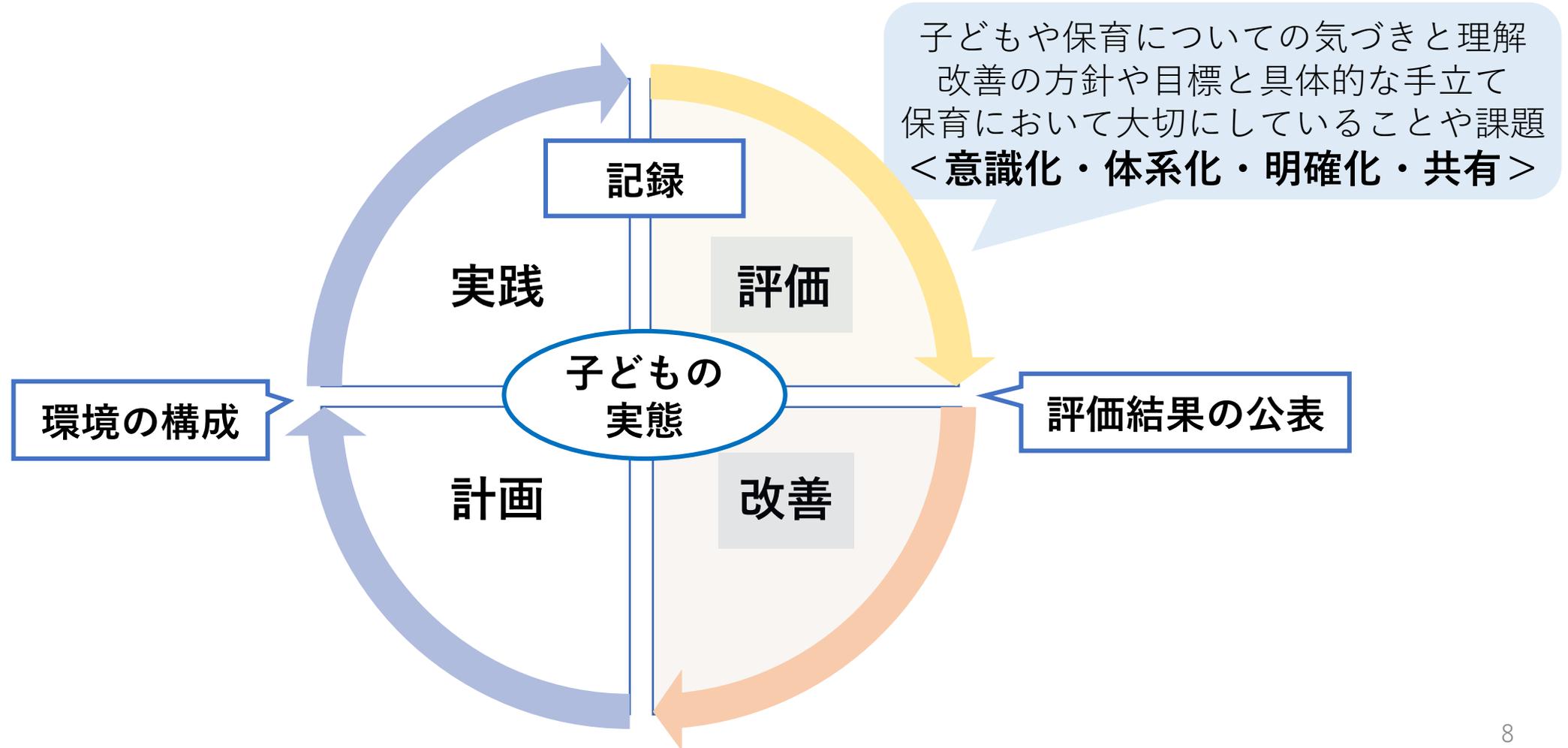
失敗しても

- 原因究明が気づきとなる
- 一緒に育てることに意義がある
- 経過観察を間近に

同じ地域で同じ活動を行うと

- 比較しやすい
- 反省点、改善点を活用しやすい
- 自己評価にもつながる

保育の過程に位置づけられる保育内容等の評価



子どもの理解に当たって意識したいこと

自分自身の 枠組みや視点の自覚

- ・ 自分の決めつけや思い込みをもとに、子どもを見ていないか
- ・ 活動の内容や出来不出来といった結果のみに目を向けていないか
- ・ 一定の基準や子ども同士の比較から、一人一人の子どもの違いを優劣として捉えていないか

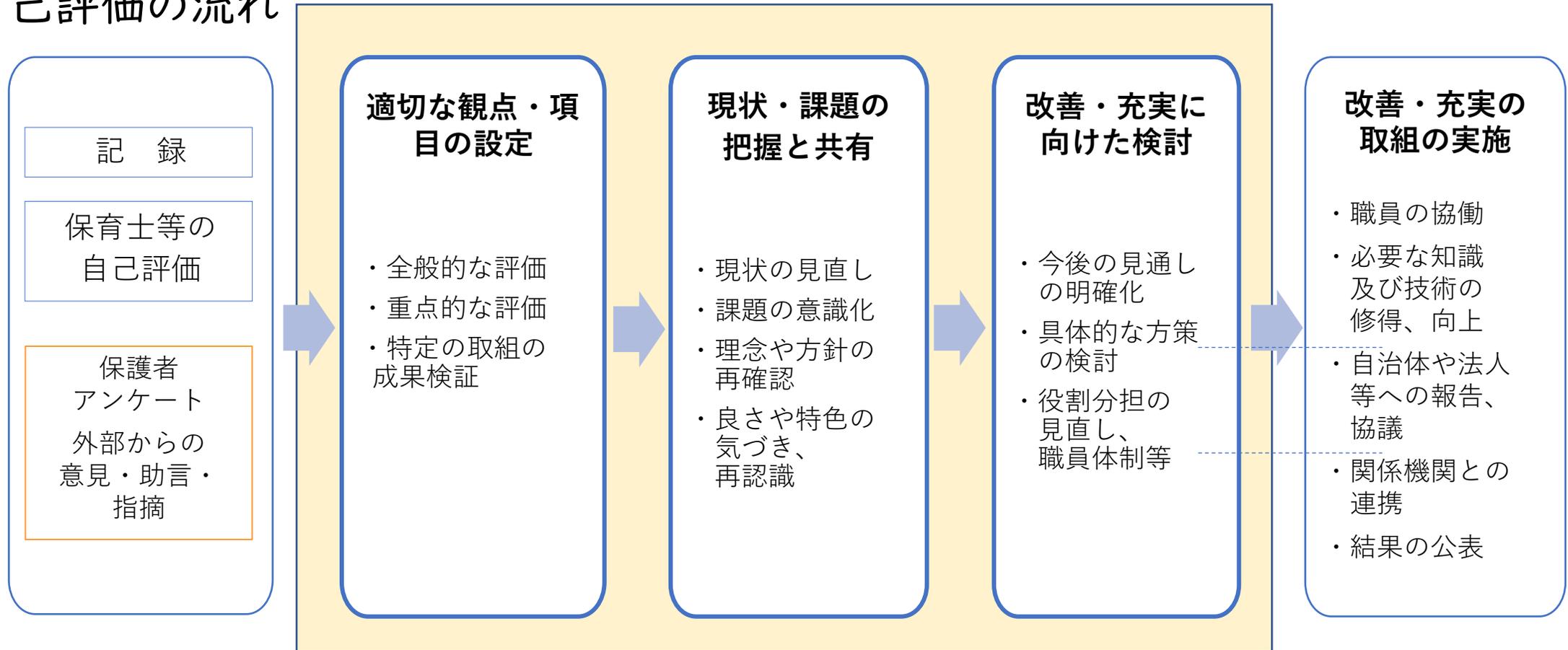
関係の中での理解

- ・ 自分は、どのような思いや願いをもって子どもに関わっているか
- ・ 自分の関わり方や保育中の状況は、子どもにとってどのように感じられているか

多面的な理解

- ・ 他の保育士等や保護者から聞く子どもの様子や子どもの話したことなどからは、子どものどのような一面がうかがわれるか
- ・ 異なる場面での姿を比べてみることによって、子どもの特徴や育ち、思いなどについて、どのようなことが見えてくるか

保育所が組織として行う保育内容等の自己評価の流れ



全職員による共通理解の下での取組

保育の改善・充実にに向けた検討の内容（例）

現状・課題を踏まえて今後どのような保育を目指すか？（改善・充実の方向性）

【改善・充実にに向けた取組に関する検討事項の例】

今後の見通し

具体的な方策・体制・手順

職員の資質向上

情報の共有・連携 （職員間・職員組織以外）

- ・どのような目標・見通し（時期・手順等）の下で取組を進めていくか
- ・取組に関連して、特に注意を向けて経過や変化を見ていくべきことは何か
- ・取組の成果や進み具合を、今後いつ・どのような観点で確認・検証するか
- ・誰が、どのような体制で取り組むか
（必要な職員の数と役割分担、職員間の連携など）
- ・保育所全体の環境の構成（物の配置、使用する場所や時間の調整など）
- ・必要となる物品等（数や量、予算の目安など）
- ・不要なものや除くべきもの、配慮や注意を要すること
- ・各職員の修得・向上するべき知識・技術と研修等の機会
- ・組織内での研修成果の共有と活用
- ・取組について保護者や地域住民等にどのように説明・周知するか
- ・保護者や地域住民等の意見や反応をどのように把握し、取り入れるか
- ・外部の専門職や有識者、関係機関の協力・助言が必要か
（連携の進め方、連絡等の窓口担当など）
- ・自治体や法人等運営主体に報告し、改善の方策を協議する必要があるか

保育内容等の評価の全体像

保育士等による自己評価

- ・ 子どもの理解に基づく保育の計画や実践の振り返り（日々や週の振り返り、月・期・年単位の振り返り）
- ・ 職員相互の対話を通じた学び合い、子どもの姿や保育の捉え直し
- ・ 保護者との対話、情報共有
- ・ 目指す方向性の明確化と保育の改善・充実に向けた検討

↓
専門性及び保育の質の向上のための課題の明確化
保育所全体の保育の内容に関する認識

保育所（組織）による自己評価

- ・ 保育士等の自己評価を踏まえた組織としての評価
- ・ 実情に即した観点や項目の設定
- ・ 全般的な評価と重点的な評価
- ・ 自己評価の実施体制の整備
- ・ 保護者や地域住民の意見の把握
- ・ 改善の目標や方策の検討と取組の成果の検証
- ・ 結果の取りまとめと公表

↓
全職員による
共通理解の下での
保育の質向上の取組

多様な視点を取り入れ活用する取組

- ・ 第三者評価の活用
- ・ 関係者（保護者等）の評価への関与
- ・ 公開保育の機会等の活用

↓
より多角的な視点から捉えた現状や課題の把握
ともによりよい保育に向け
取り組む関係の形成

取組全体の充実と保育の質の向上